

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

泉崎村立泉崎第一小学校長

令和4年4月19日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、並びに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々が共に手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	65.6%				○	
算数	63.2%		○			
理科	63.3%		○			

【国語:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	69.0%				○	
我が国の言語文化に関する事項	77.9%				○	
話すこと・聞くこと	66.2%				○	
書くこと	48.5%	○				
読むこと	66.6%		○			

**【考察】**

- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことと自分が聞きたいこととの中心をとらえる問題が良くできていました。相手の話をもとに、質問したり応答したりする体験を低学年の頃から適切に積み重ねてきたことが伺えます。特に高学年では、質問して分かったことをもとに自分の意見を形成し相手に伝える活動に重点を置いています。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題に課題が見られました。週末の課題作文を通して、事実と感想・意見を区別して書くことには親しんでいたものの、文脈が整った文章になっているか、目的に応じて効果的な構成になっているか、また、図表やグラフを効果的に用いているかなどの観点で、自分の書いた作品を遂行する活動を積極的に取り入れていく必要があると考えます。

**【算数:本校と全国の領域別平均正答率比較】**

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	69.8%		○			
図形	64.0%	○				
変化と関係	51.3%		○			
データの活用	68.7%			○		

**【考察】**

- 飲み物を二つに等しく分けた場合のように、数量は変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかを見る問題に課題が見られた。授業の中で日常の具体的な場面に対応させながら、一定の濃さの飲み物を何人かに分けても濃さは変わらないことをとらえることができるようにしていく必要があると考えます。
- 問題場面に応じて、切り上げ、切り捨て、四捨五入のどの方法を用いるのが適切であるかを考える問題で課題が見られました。単品とセットの値段を比べる際に個数をそろえたり1個分の値段を比べたり、また、概数を用いてお得ない買い物をする方法を考えたりするなど、日常生活と結び付けて問題を解決する活動を位置付けていく必要があると考えます。

**【理科:本校と全国の領域別平均正答率比較】**

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	51.6%		○			
粒子	60.4%		○			
生命	75.0%	○				
地球	64.6%	○				

## 【考察】

- 昆虫の育ち方と食べ物を対象として、育ち方と主な食べ物の表から気付いたことをもとに昆虫の食べ方に関する問題を見いだす問題に課題が見られました。観察や実験を通した気づきを共有し、違いや共通点を見だし、そこから新たな課題を見いだしてさらに追究を深めていく活動を位置付けていく必要があると考えます。
- 観察結果を表した資料と並行して示された「結果からいえること」を比較して、資料のどの部分から分析した考察なのかを考える問題で課題が見られました。提示された資料から数量、変化の大きさなどの特徴を読み取り、自分なりに分析したことを表現する活動を適宜位置付けていく必要があると考えます。

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

泉崎村立泉崎第一小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、その結果及び考察の一部をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取り組みや読書の様子など家庭生活に関する調査結果を公表し学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でもお子さんと一緒に話し合っ、て、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

1 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

		よくしている	ときどきしている	あまりしていない	全くしていない
小	全国	27.5%	43.6%	21.4%	7.4%
6	泉崎一小	27.3%	40.9%	22.7%	9.1%

【考察】

- 全国平均と同程度の結果となりました。家庭学習ファイルの活用や家庭学習スタンダードの配付による各家庭の意識の高まりがうかがえます。ただし、家庭学習への取組が消極的な児童が30%を超えているので、家庭学習への取り組みせ方や内容の改善を図っていきます。
- 子どもの興味・関心に基づく学習を取り入れた自主学習を推奨し、より意欲的に家庭学習に取り組むことができるようにしていきます。

2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全国	11.3%	13.8%	34.4%	25.8%	10.5%	4.2%
6	泉崎一小	0.0%	18.2%	40.9%	13.6%	18.2%	9.1%

【考察】

- 本校の6年生の家庭学習の目安時間70分を達成している児童が約60%と課題の残る結果となりました。おそらく、自主学習への取組に差があるためであろうと考えます。どのように自主学習に取り組めばよいか再度子ども達と確認し、興味・関心に基づく課題を見つけたり、自らのウィークポイントの解消のために復習に取り組んだりすることができるようにしていきます。
- 「家庭学習ファイル」の計画と振り返りを通して、より計画的に家庭学習に取り組むことができるようにするとともに、自己マネジメント力を高めていきます。

3 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
小 6	全国	7.2%	10.1%	19.1%	23.2%	14.1%	26.3%
	泉崎一小	13.6%	18.2%	36.4%	4.5%	13.6%	13.6%

【考察】

- 帰宅後10分以上は本を開いている子どもが70%を超えており、一定程度の読書量は確保できていることが伺えます。SSSやSTの力をかりて、図書館の環境整備や、掲示の工夫、さらに関連図書の展示や読み聞かせなど、より効果的な図書館経営ができていることが要因であると考えます。
- RSTの結果を見ると、決して読解力に優れているとは言えず、本の内容を精査したり、要約したり、自分の感想や意見をまとめたりするような活動を取り入れていく必要があります。

4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他	無回答
小 6	全国	30.4%	43.1%	19.9%	6.5%	0.0%	0.1%
	泉崎一小	18.2%	45.5%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%

【考察】

- 肯定的な児童が60%程度と、課題の残る結果となりました。対話を通して学ぶことや協働的な活動に対して消極的であることの現れです。授業中の発言が理解の早い子や音声表現に優れた子に偏っているのが原因であろうと考えます。一人一人が課題を明確にして学習に取り組むことができるように問題場面の把握に十分な時間をかけるとともに、難語句を身近な表現に置き換えながら内容を把握できるようにしていきます。さらに対話や協働を通して、友達の見方や考え方を生かして自らの意見をまとめ、進んで表現することができるようにしていきます。